YU Information

ワイユー インフォメーション

山口大学広報誌 2009.5月号 NO.91

特集

「地域とともに歩む山口大学」

YU Information ワイユー インフォメーション
山口大学広報誌 2009.5月号 NO.91

目次 発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場

特集「地域とともに歩む山口大学」

○座談会：地域で活躍する卒業生が山口大学と地域との関わりについて語る … 2
○地域が大学に期待すること …… 米倉一夫 11
○地域へ広がる「知の広場」－地域連携を中心とした公開講座－ … 辰己佳寿子 12
○高速回線、バーチャルスライドを活用した大学・地域病院間情報交換の実施 …… 小賀厚徳 13
○産学連携活動について …… 林里織 14
○地域企業との交流
イノベーション－新市場を作り出す－
産学公連携・イノベーション推進機構の取り組み …… 杉浦文彦 15
○山口県内各地域と山口大学の交流会 …… 総務部総務課 16
○地域で活躍する学生サークル …… 総合企画部広報チーム 17

トピックス

○吉田キャンパスの正門・駐車場が変わります …… 18
○常盤女子寮が完成！ …… 19
○平成20年度山口大学大学院修了式・山口大学卒業式 …… 19
○平成21年度山口大学大学院入学式・山口大学入学式 …… 19

私の授業 …… 20
私の研究 …… 21
教員から寄せられた著書 …… 23
編集後記

表紙説明（教育学部附属光中学校生徒作品）

「すずしい風の通り道」
２年　仲山　景
この道は、いつも部活へ行くときの通り道で、私の一番好きな風景です。涼しげな感じを出したいと思い、描きました。

「光」２年　柳原　怜央
一つの机は孤独感を表しており、暗い色を意識して描きました。そこへ差し込んだ優しい光でその孤独感を救っている、その光と闇の空間を描きました。

「見慣れた階段」
２年　仲山　好
昔から階段が好きで、特に中学校ではこの古い感じの階段が気に入っていたので、いつか描きたいと思っていました。その階段に日が差し込んでいる様子を描きました。

座談会 地域で活躍する卒業生が山口大学と地域との関わりについて語る

2009年４月４日、卒業後も山口県内で活躍する４人と丸本学長で、山口大学の地域との関わりについての座談会を開催。山口大学の地域連携、山口大学への期待、卒業後に感じたことなどを大いに語っていただきました。

（写真：後列左から、安藤竜馬さん、丸本卓哉学長、長安里枝さん、上利英之さん
前列左から、伊藤直弥さん、坪郷英彦教授（司会、広報委員会委員））

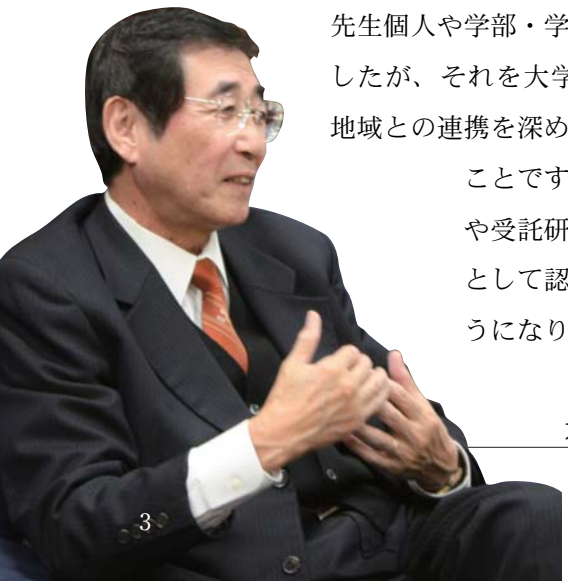
地域と大学の連携

○司会　ほかでもない卒業生の皆さんですから、ざっくばらんに今日はお話ししていただきたいと思いますので、皆さんよろしくお願いいたします。初めに、学長から山口大学の地域に対する取り組みを簡単に述べていただいて、話のきっかけにしたいと思います。

○学長　山口大学は、５年前に法人化して、今まで文部科学省の国立大学であったところが、一つの法人として、全国の法人がある意味では競争の時代に入りました。法人化の前後から私たちが考えたのは、より地域に密着した大学づくりをしなくてはいけないということです。昔から、地域密着の活動をしていなかったということではありません。例えば、ある学部の先生方とか、グループなどでは一生懸命されてきたんですが、大学として、それを一つの方針として行ってきたかというとそうではなかったんですね。それが法人化して、国立大学法人の方針として地域にもっと貢献できる大学を目指そうということが出てきました。これが法人化しての大きな違いだと思います。

本学が、以前から行ってきたことの中に、授業に関するものでは、公開講座、出前授業、あるいは開放授業というものがあります。これらは、法人化前から幾つかありましたが、それをより一層組織として支援をしながら行っていこうということです。

それから、地域の企業との協力を先生個人や学部・学科で行ってきましたが、それを大学として支援し、地域との連携を深めましょうということです。特に共同研究や受託研究などは、大学として認知・支援するようになりました。そのため民間の企業だけではなくて、山口市や宇部市などの自治体、JICA（国際協力機構）、JBIC（国際協力銀行）などの公的機関とも連携協定を結びまして、いろんな受託的な事業や共同研究などを引き受けて、専門家の先生方に頑張っていただいています。



丸本　卓哉　学長

もう一つは、県内に４年制の大学が12あり、「大学コンソーシアムやまぐち」をつくって、12大学が連携をして、入試や大学案内の問題、また、先生や職員の研修会などを効率よく協力して実施するなどで、協力関係を持っています。こういうことを通じて、地域への連携を進めていくということを、特に法人化以後進めています。

一方、山口県内から山口大学に進学する高校生は約25％、75％は他県からの人です。その内どれくらいの卒業生が山口県内に就職で残っているかというと、残念ながらほとんどの学生が他県に出てしまいます。県内に企業がないのかというと、そうではありません。宇部興産、トクヤマ、東ソーなどいろんな優秀な会社は多数あるんですが、どうも若い人の意識というのは東の方へ、あるいは大都会に行きたいという強い希望があります。

結局地域で活躍するという山大の学生さんが非常に少ない。では、学生さんが県内の企業のことをよく知っているかというと、実は意外と知らない人が多いんです。大学としてももう少し地域の人と日ごろからよくコミュニケートしておく必要があるのに、それが少し足りなかったのではないかと思ったんですよ。それで、地域の人に話を聞くと、やっぱり山口大学は敷居が高いと。いろんな相談をしに行こうと思っても、先生方の意識も高いから何か相談に行きにくいというようなことを聞きましたので、そこから打破しようと思いました。大学コンソーシアムもその一つですが、私たちの方から地域に出かけていく必要があるだろうと思いました。地域の方とどんな課題があるか話をする必要があろうということで、２年前ぐら

いから、山口県を７ブロックに分けて、そのブロックに部局長の先生方や、センター長を含めて、執行部が出かけて、中小企業の方を中心に集まっていただいて、どんな課題があるのか話をしましょうということを始めました。これを地域交流会（関連記事：16Ｐ）と称していますが、商工会議所の方にお世話を願って、いろんな大学の事情を話し、企業もいろんな想いを語ってもらうということを始めたのです。大変好評でして、今まで６地域で開催しました。あと最後の１地域は、長門・萩です。この地域交流会を始めてから、やはり地域からいろんなクレームというよりも要望や貴重な意見がたくさん出てきました。

今日、卒業生の方に来ていただいたので、ぜひ大学に対する要望や意見をお聞きしたいし、私の方からもいろいろ皆さんに質問して、今後に活かしたいと思っています。

山大卒でよかった

○司会　今回４つの学部の卒業生の方に来ていただきましたが、それでは、まず社会に出て山大卒でのメリット・デメリットを体験的に話していただきたいと思います。

○安藤竜馬　外に出てみて分かるのは、山口大学というブランドは、地域では非常に強いブランドだと思います。しかし、東京とかに行くと、あまり強みがないというのはあります。その違いはいろんなお客さまとお話している中で感じるときがあります。そのブランドで山口大学というのがいい悪いというのは、そういうふうに感じたことはないんですけど、お客さまの反応とか人の反応というのは違いがあるというのは感じます。

○学長　ネームバリューと言うのかな。

○安藤竜馬　そうですね。山口県ですと、いろんな大学があってもやっぱり山口大学が一番大きいというのがあって、他の大学との差が非常についている状況なので、やはり印象がいいというか、周りから見てもいろんな方とお話ししても認知されているということはあります。ただ、他県とか外にいくと、他のいろんな大学との競争の中での山口大学という位置づけになるので、その県内と県外では印象が違うというのはあります。

○学長　今、ネームバリューのことを言われましたが、自分が勉強して持っていたものが、東京に行ったり、他大学の人と会って話していると、山口大学の学問レベル、あるいは教育・研究レベルなどが比較できるようになりますが、内容的にはどのような感じがありましたか。

○安藤竜馬　内容的には引けを取るということはないと思います。ただ、一つあるとすれば、いろんな方とのお話をしたときに、見られるときにフィルターが１つ入っているというのがあると思うんですね。それをどう取り除くかがやっぱり自分次第というのはあると思います。

○司会　大なり小なり社会に出るとみんなが経験することかもしれません。伊藤さんはどうでしょう。

○伊藤直弥　私の場合、まさに大学でやっていたことが、そのまま仕事に役立っているので、埼玉から山口大学に来て、農学部の細井先生、小沢先生について県内でどんなことをやっているかを見るにつれて山口県が好きになって、山口県に就職しようと思いました。しかし、研究をしたいと思ったときにどんな所があるのか、いろいろと就職先を探すときには悩みました。今社会に出て、県内にいろんな企業があって、いろんなことをやっているんだなというのが、大学のときにそういう情報を少しでも知っていたら、もうちょっとまた別の見方があったのかなというものはあります。

安藤　竜馬さん

平成13年度　大学院理工学研究科修了
平成18年度　大学院技術経営研究科修了
現職：エコマス(株)　代表取締役

○学長　伊藤さんのような野生動物に関するような仕事するというのは都会ではできませんよね。

○司会　山口の環境はやっぱりいいと思うんですけど、大学６年間過ごす中でその良さに気づかれたのですね。長安さん、外から見た山大の様子はどうですか。

○長安里枝　やはり地元ですから卒業生の方には大先輩がいらっしゃいます。私が54期の卒業生なので、あだ名が54期で、お客さまもそうおっしゃってくださいます。自分は○期だということで、そこに先輩後輩の関係ができてしまいますが、私が山口大学を出たということで信用をしていただけます。デメリットとしては、お酒をいただく量が増えてしまうことでしょうか。私が先輩として、例えば学生さんがアルバイトで面接に来てくださったりとか、観光政策学科の方とSLのお見送りだったり、まちづくりの会議においても触れ合う機会が結構あって、そのときに山口大学の経済学部だったんですよというと、ただ学食の話をするだけでも、ちょっと信用してもらえるんですよね。大した人間ではないんですけどやっぱり旅館の若女将というと敷居が高いみたいで、学生の自分とどんな話をしてくれるんだ、むしろ何か提供してくれるのかという期待と不安の気持ちでぶつかっていらっしゃる方が多くて、その点ですごく助かっています。そういう学生の方に何か提案ができたりとか、相談に乗ってあげたりするように、自分もなっていければいいなと思っている真っ最中です。

○学長　卒業されてまだ間もないですね。経済学部は非常に同窓会が強い学部なんですよね。鳳陽会という同窓会なんですが、しっかりした組織で大学も非常に助かっています。

○司会　山大の歴史を調べたことがあるのですが、以前、山口の旧市街に大学があったころ、学都と呼ばれていたようです。今でもそうだと思うんですよ。学生のアルバイトとかというのは、ほとんど湯田しかなくて、学都山口というのをもう一回言ってもいいんじゃないかと思うんです。

安藤さん、伊藤さんの場合は、大学の先生とか学部のつながりがあって、その延長で地元に残り、自分の仕事を持っている。長安さんの場合は、同窓会のつながりとか、自分のご両親のつながり、そういうふうな縦のつながりがずっとこうあるような気がしますね。

続いて上利さん、よろしくお願いします。

○上利英之　私もいまだに教育学部の指導教員であった菊屋先生とまだお付き合いさせていただいておりますし、山大にもたまに顔を出させていただいています。そういう意味で私と山大はまだ近いと思います。また、私も６年いましたので、親近感はあります。今は周南市に住んでいますが、20数年山口市にずっといたものですから、地元の人たちからも良い大学だとか、山大のブランドみたいなことというのはいろんな方面から聞きます。ですから、自分がそこに入れたというのはちょっとうれしいと思っています。私は平成10年度入学で、文芸・芸能コースなのですが、私が一期生なんです。入学する前は文芸・芸能コースって聞いただけじゃ何か分からなかったんですよね。何かおもしろいことができるのではないかということを思わせるような名前でしたし、紹介文には、先生もいろんな先生が集まって、そして、立ち上げられたコースと書いてあり、それも興味ありました。入ってみるとやはりおもしろいところで、

上利　英之さん

平成13年度　教育学部卒業
平成15年度　大学院人文科学研究科修了
現職：周南市美術博物館　学芸員

いまだに学生時代に知り合いになった先生と遊びに行ったりと、そのような関係が続いています。

○学長　今は、若い方が卒業して大学になかなか近寄らないといいますか、先生方との関係が薄れたような気がしています。大学の同窓生とか先輩後輩というのは、ずっとそれから先の一生の仕事も含めて話ができるんですね。卒業式の際に言っていますが、君らが大学で得た友達、先輩、後輩、先生との関係を大事にしてくださいねと。いいときばっかりじゃなくて、困ったときも非常に力になってくれるんですよって。だから、ぜひ卒業生の方には、大学に対してもいろいろな提案や苦言をしてもらうといいなと思います。

大学へ要望したい

○司会　続いて、ちょっと厳しい話で、山口大学にもっとこんなことをしてほしいとか、ほしかったというのがあったらお聞きしたいと思います。

○安藤竜馬　私は、工学部を卒業して、その後、技術経営研究科に入学して、そこを卒業して２年ぐらい経っているんですが、勉強しているときはその大切さって分からない。ただ、教えられているとか、実験とかやっている。なぜそれを今やらないといけないのかというのが、そのときには分からないんです。でも、社会に出てから、実際に業務をしていたら、初めて大学で学んだことの大切さが見えてきます。技術経営で勉強したことが、そのときは聞いているだけで、卒業して研究すると分かってくる。そのときにもう一回授業を受けたいということがあるんです。そのときにはもう社会に出ているので、先ほど言われた公開講座に行くような時間もないときも多々あるので、何かそういうものがあると、もう一回あの先生のあの授業は今どういうことを教えているとか、最新の授業の内容も聞けるし、今のこのITの時代に、そういう時間と場所を選べ、卒業後に授業が聞けるような形があれば、もっと学んだことを本当に活かせるのではないかなと思うんです。

○学長　大学に来る時間をつくれる方ならば公開講座や開放事業を利用されたらいいと思います。それよりも、トピックスで、集中でいいから１日に３、４時間、最近の問題についてぜひ授業をしてもらいたいと思われれば、遠慮なくエクステンションセンターに相談してください。旅費・謝金を払う必要がありますが、可能です。１社で申請するのが難しいのであれば、数社集まってやることも考えられます。関連の会社でこういう講義やトピックスを聞きたいんだけど協力しませんかと声をかけて、そして、大学に相談してくれませんか。ぜひそういうのを、企業の方からも要望していただければいいと思います。

○安藤竜馬　シーンに合わせて授業が用意されていると非常に分かりやすい。文章ばかり書かれて、ホームページでも文章としてストックのように書かれているんですけど、実際に企業からみると、こういうことで困っているから、そういうときにはこれを使って、こういうサービスがありますよのような、受ける方も、動きを主体にした、そういうような記事が載っていると非常に利用しやすいのかなと。

○司会　何かサロンみたいな場があってもいいですよね。工学部で何曜日の夜だれかが来て話すとか、企画をする側もOBの人がやってもいいですし、何か

伊藤　直弥さん

平成14年度　農学部卒業
平成16年度　大学院農学研究科修了
現職：山口県畜産振興課衛生・飼料班　技師

ふらっと行ってみると話が聞けるとか、そういうのもいいんじゃないかと思います。

○**安藤竜馬**　会社に来ていただくとなると非常にこちらも意識しないといけないし、毎週の何曜日の、例えば、水曜日の夕方６時からはここに行ったら何かいろんなことが聞けるというのがあると非常に行きやすいのかなと思います。

学生に社会とのつながりを

○**司会**　長安さんは、何か山大に期待する、こうしてほしいというものは、ありませんか。

○**長安里枝**　先ほど話した観光政策学科の学生さんたちにすごく期待をしています。こちらとしては観光のPRにおいても、私たちは現場の人間で学術的なものとか、例えば、統計的なデータだったり、データを基にした具体的な案まで持っていくとことができなくて、こういう現状があるからこうしたらいかがですかという提案をいただければと思います。ちょっと丸投げ気味なのですが、意識改革の段階から、学生さんをカンフル剤ではないんですけど、やる気のある学生さんにどんどん入ってきていただきたいんです。

　ただ、言ってくれるという事実だけでもすごく学生さんのやる気が私たちの心を動かしますし、だから、そういう環境をまず私たちがつくらなくてはいけないんですけど、まず、そういうやる気がある学生さんと知り合う機会がこちらとしてはほしいと思っています。やる気が今もてない学生さんでもまずは湯田温泉にいらっしゃってみて、湯田温泉の現状を調べてみられては。旅館に食事にいらっしゃることはなかなか難しいかと思うんですけど、その点は先生が招待されるとか。

長安里枝さん

平成18年度　経済学部卒業
現職：割烹温泉旅館西京　若女将

○**学長**　旅館組合からでもいいですし、商工会からでもいいですけど、いろいろざっくばらんに話す会をもてれば良いですね。山大の観光政策学科やそれ以外の学科の学生さんでもいいと思いますが、山口の観光に興味を持つ人がいたら、どうぞ手を挙げてきてくれませんかと、２カ月に一度でもいいから、そういう会をもちたいと大学に提案し、学生さんを公募すると良いと思います。

○**長安里枝**　温泉も入ってもいいので。好きになっていただきたいですね、湯田温泉というか山口を。

○**司会**　実社会で学生が実際に行動して学んで、卒論等を書くってすごく大事なことですよね。そういうコミュニケーションが湯田でできるならとてもいいことだと思います。伊藤さんはどうでしょう。

○**伊藤直弥**　農学部は、丸本先生や、西山先生がいろいろ山口をぐるぐる回られていて、山口のことをご存知なので、そこから山口のことをいろいろお聞きして、山口の勉強になりましたが、企業にもちょっと行きたかったなという思いもありました。県の施設や県外各地の農業の現場は見せていただいたのですが、企業はありませんでした。企業訪問に自分で行きたいと言って行けばいいのかもしれませんが、ちょっと受身の学生が多いのかもしれないので、こういうところもあるんだなと、勉強になって、山口のことがもっとよく分かって好きになるのかなと思います。

○**司会**　そういう場に学生のころから連れて行ってほしかったというのが伊藤さんの思いですね。

○**学長**　自分から仕掛けていったらどうですか。まだ若いからできますよ。

○**司会**　上利さんは山大に期待することはありますか。

○**上利英之**　ちょっと今はどうなっているか分からないのですが、私が学生のときに学芸員の資格を

取りたいと思いましたが、人文学部でしか学芸員の資格が取れなかったんです。それで、菊屋先生に相談しまして、教育学部長から人文学部長にお話をしていただいところ受けられないと。今の学生さんはそういう思いをしてほしくないなと思います。縦割りで学部間同士の風通しが悪いんじゃないかなとも感じました。

○学長　だから修士に行って２年の時間をかけながら学芸員の資格を取られたんですね。それだけ熱意があったから取られたので、すばらしいなと思います。今後は教育学部でも学芸員の資格が取れるように改革案が出てきました。多分そうなるのではと思います。

　それから、地域との関係では、経済学部の歴史が一番古いんですが、上田鳳陽先生が山口講堂で高等教育を1815年に長州で始められてから、2015年で200年になります。200年以上の歴史を持つ大学は日本で２校しかありません。一番古いのは東京大学で、次は東北大学、その次が山口大学で全国で３番目に古いんですよ。こういうことを知って、皆さん方には誇りに思っていただきたいと思います。それから明治維新発祥の地で、長州ファイブのような大先輩の偉業を目指すといったチャレンジを我々の宝として大事にしていけば、全国から山大の卒業生を取りたい、ぜひうちの会社に来てくださいというぐらいなるといいと思います。なれるはずです。そのためにも、山口大学の理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする　知の広場」を実行し、自分をしっかり発見することです。自分の能力や個性を見て、それを４年間体験しながらはぐくむと。授業だけではなく、ボランティアや課外活動、友達との交流や、社会との交流の中から、実力が培われていくので、そのプロセスを大事にしてほしいと思います。

　山口大学の環境は他大学よりは絶対いい、先生方もそう信じています。山口大学では、非常にたくましく、チャレンジ力があって、自分で課題を解決しようと努力する人材が育つと信じています。

山大生へのメッセージ

○司会　最後に、皆さんが現役の学生に望むこととか、一言ずつお願いします。

○安藤　私が学生さんに会うたびに言っているのは、学生時代は、やりたいことを学生のうちに何か見つけてやってほしいということです。

　学生のころというのは責任というものがほとんどなく、抱えている家族とか、そういうものがまだないときであれば、チャレンジするチャンスというのがたくさんあり、いろんなことにチャレンジできると思うので、何かこうメッセージをと聞かれたときには、やりたいことをまずやってほしいということは、いつも伝えています。

○司会　山口に戻ったらいいよとか、山口で起業したらいいとかという思いはありませんか。

○安藤　非常にいいと思います。やっぱり情報は東京とかの方が少し早いというのも正直あるんですが、じっくり落ち着いてやりたいという人は、山口に残った方がいいと思います。実際に私の会社でも、農学部の卒業生が今も働いていて、一度東京に出た工学部の卒業生も入っています。じっくりやりたい人は戻って来るという良さを分かっていますので、そこを学生時代に山口のいいところを、１回は教えておくと、東京に出ていっても次の機会に、30歳ぐらいでもう一度チャレンジするときに山口で何かやってみようと思うのではないかと思います。

○伊藤直弥　山口県にいていただいたらいいところが見えてく

坪郷　英彦　教授
（司会、広報委員会委員）

ると思うので、この湯田温泉だけじゃなくて、県内各地をボランティアで行くなり、何か活動で回られたら、山口のいいところが見えてくるから、そこからまた、私もそうでしたけど、山口に住みたいなとつながってきたので、本当に特にやっていってほしいなと思います。

○**長安里枝**　私が今、自分がこうならなくてはいけないと感じていることがあって、最近、山口市に対する学生さんのアンケートを読んで、あれがない、これがない、何ができないと、ないないばっかりだったんです。じゃあ、そのないという学生さんが言っていることの範囲がすごく狭いところ、自分が自転車で行ける距離に遊び場がない。学生さんが求めている遊びは、すごく物理的な遊びというか、クラブがないとかいうものでした。そうではなくて、山口県は瀬戸内海や、日本海に面しているし、関門海峡に行けば渦潮も見られるし、山に登りたかったら山もあるし、湖もあります。山口には海の幸・山の幸に多くのものがあって、山大からは自転車で10分の県庁の裏にはタケノコも採れるし、マツタケも採れます。そういう自分たちの生活するスペースではなくて、もう少し他に何かあるかも知れないと、そこに行ってみれば、自分に何か得られるものがあるかもしれないという可能性を感じてほしい。今ここに何もないから、もういいやとかではなくて、もう少し広い範囲で山口市、山口県を見てもらいたいです。

その上で、やっぱり自分が求めるものも広い目で見ていけたら、また、学生さんと一緒にこういう気持ちで生きていきたいと思います。だから、一緒に、まずは湯田温泉から、アルバイトやボランティアとか、そういう機会を私たちがつくっていきたいと思います。

○**上利英之**　そうですね、学生の場合は時間もあると思いますので、これがおもしろい、興味があるとか、あとはとにかく楽しいと思うことをまずどんどんやってもらって、不思議に思うこととか、これどうなっているのと感じたことが何かあったら、自分が納得いくまで調べたりとか、勉強したりして好きなことをして楽しんでほしいです。例えば大学の先生と一緒に、ちょっとどこか行こうと言われたときに、引っ込み思案にならずに、どんどん積極的に、楽しいことにかかわっていけば、それが最後には社会勉強につながっていくと思います。不思議と思ったことを調べていくと、それがそのまま勉強になったり、研究になったりするわけですから、構えるのではなくて、自然とそういうふうになってほしいかなと思います。

○**司会**　山口のこういうところがいいというのはありますか。

○**上利英之**　そうですね、一言では言えないんですが、楽しいことを見つけられれば、この県内に自然と残っていくんじゃないかなと思います。楽しいことは山口県にまだまだいっぱいあるわけですから、そういうことを探すというのもおもしろいことではないかなと思います。先ほどおっしゃったように、海もありますし、山もありますし、独特の大内文化が栄えた室町時代からそのままの地名が残っていたりするわけですから、例えば、何でここはこの地名なんだろうか、この町並みは何でこんな町並みなんだろうかと、そういうのをちょっと気づくだけで学生生活がおもしろくなるだろうし、それが山口にずっといることによって、そういったことを知ることができるようになる、ということにつながっていくのではないかと思います。情報の発信源は東京というのが一般的な見方だと思いますが、東京ばかり追いかけるより、もっと足元を見てから、他のところを見なければならないのではないかなと思います。

OBとして第２の学生生活を

○**司会**　大学のこと、学生さんのこととか、いろいろお話できて、おもしろかったです。さまざまなつながりを形として持ちたいというのが出まし

4月4日、学長応接室にて

た。湯田と学生のつながりとか、それから、授業と学生とか、縦・横・斜めのつながりを持ちたいというのが根本にあるのかなと思います。それは大学も考えることだと思います。最後に学長から一言お願いします。

○学長　今回、卒業生の方々との集まりを初めて体験しましたけど、皆さん方はまだお若いのに、大学の理念「発見し・はぐくみ・かたちにする」というのを、本当に体験しておられ、ちゃんとかたちになっていますね。大変嬉しく感じました。

大学と現役生、卒業生は皆一体感を持って、いろんなことをやっていく、また進めていくことによって大学の歴史や伝統がつくられ、個性ができてくると思います。卒業したら終わりではなくて、それからまたOBとしての第２の学生生活が始まったと思っていただけると大変ありがたい。

学生がきちっと育つ教育を我々はしなくてはいけないのですが、OBや地域社会の人とも一緒になって学生を育てるという意識をもっていけば、もっと山大のネームバリューが上がると信じております。皆さんは山口におられますから、現役学生がいろいろお世話になると思いますけど、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今日はどうもありがとうございました。

皆さん方のますますのご活躍を祈ります。

地域が大学に期待すること

平川自治連合会　会長
米倉　一夫

はじめに（平川地域の概況）

県都山口市の中央を流れる「椹野川」の右岸に山口県を代表する湯田温泉があり、その対岸に位置する当地域は、「姫山」の裾野を中心に古代より集落が発達し、以来農村地帯として、発展してきました。

そんな中、昭和41年から始まった「山口大学」の移転に伴って、地域の生活の状況は大きく変わり、平川中学校、西京高校等ができ、幼稚園・保育園から大学まで全ての教育機関が揃う「学園都市」へと変貌してきました。

今では、平川小学校は児童数が千人を超す県下一のマンモス校となり、農地は開発され一般住宅の建設が増加し、地域の人口は市内最高の10％を超える伸び率となっています。

また、人口増に伴って生活への安全安心面への不安も増しています。

今後の地域の取り組みについて

山口市では、平成21年度から共に考え協力し、行動することにより、個性豊かな活力のある自立した地域社会の実現に向けての取り組みを始めています。

平川地域も、これらの方針に従い「個性豊かな活力ある自立した地域社会」の実現をめざし、誰もが住みたい、住み続けたい、暮らしやすいと思う地域を次世代へ引き継ぎたいと考え、「住み良い豊かな地域社会」をつくるための事業や活動を展開していくことにしています。

地域と大学のかかわり

今までも、一部ではありますが大学生の皆さんには、地区民大運動会、春・秋のふれあいクリーン作戦（九田川の清掃）、盆踊り大会や平川まつりにご参加いただき、また地域からは、「山大姫山祭」に出店するなど地域と大学生との交流を図ってきましたが、これからは、平川の「地域のまちづくり」のために地域の一員として地域課題の解決や心豊かに暮らせる地域社会の実現に向けて、相互に協力し、連携して共にまちづくりを進めていけたらと思います。

大学に期待すること

そこで、山口大学には、専門的で多分野にわたる学術知識の提供や大学生の活力を活かす活動をお願いし、共に情報の共有化を図り地域と一体となった「地域まちづくり」の実現を目指したいと思います。

そのためには、まず相互の連絡窓口の開設が必要かと考えます。

おわりに

地域住民はもとより、人生の一時期を過ごした大学の職員、学生をはじめ関係者の皆さんが平川に住んでよかったと言えるような地域作りを目指したいと思いますので今後ともよろしくお願いします。

地域へひろがる「知の広場」
－地域連携を中心とした公開講座－

辰己佳寿子
エクステンションセンター　准教授

キャンパスを越えて

山口大学では、平成21年度には19の公開講座を開講する予定です。学内キャンパスでの講座ばかりでなく、近年は地域の方々とともにフィールドで学び、考える、というキャンパス外での講座も増えてきました。

本年度の地域連携を中心とした公開講座の一部をご紹介します。

秋吉台で自然に触れる

「歩いて、学んで、理解する。カタログにない秋吉台」（４月18日、19日）では、秋吉台エコミュージアム、秋吉台家族旅行村での講義とともに、秋吉台の草原を散策しました。天気にも恵まれ、受講者の方々も笑顔いっぱいで自然を満喫されていました。夜の歓迎会や朝の散歩プログラムなど地域の皆さんが主催するオプション企画も大好評でした。

５年目を迎える秋吉台講座（第５期生の皆さん）

仁保大富でいなか暮らしを考える

「今日から始めるグリーンライフ講座」（８月28日、10月２日、10月30日、11月27日、２月６日）は、農作物の栽培や農的な暮らしに関する知識や技術、食の安心・安全や環境問題について考える実践的講座です。本年度からは、山口市仁保地区大富でのフィールド実習（本格的な炭焼や炭の窯出し等）が行われる予定です。

俵山温泉で暮らしの伝承を学ぶ

「俵山を歩いて暮らしの伝承を学ぶ」（９月26日、27日）は、長門市の俵山温泉にて、講義を聴き、街中で湯につかり、地元の人たちと交流し、周囲を歩きながら湯治の街の暮らしを体験する講座です。夜のオプションコースでは、地元料理を味わいながらの夜の交流会が行われる予定です。

20年度公開講座　俵山温泉での夜の交流会の様子

地域へ広がる「知の広場」

このような公開講座を実現するためには、「とってもゆかいな秋吉台ミーティング」「やまぐち里山環境プロジェクト」「俵山地区発展促進協議会」などの地元団体との連携が欠かせません。このような講座を通じて「発見し・はぐくみ・かたちにする知の広場」は、地域へと広がりつつあります。

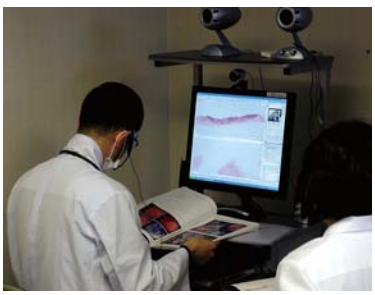
▶学内連絡先
TEL：083-933-5059
E-mail：exten@yamaguchi-u.ac.jp
URL：http://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/

高速回線、バーチャルスライドを活用した大学・地域病院間情報交換の実施

大学院医学系研究科
分子病理学分野　講師
小賀　厚徳

バーチャルスライド（高精細病理画像）システム

パソコンを使ってモニター上に顕微鏡と同様の画像をストレスなく、視野の移動や縮尺の変更が自在な状態で表示できるシステムです（グーグルアースをご想像ください）。分割撮影された画像から継ぎ目のない数十億画素の巨大な画像を作成し、その一部を表示します。サーバーを介した画像情報の発信や、テレビ会議の実行が容易です。また、山口大学では学生教育にも利用されています。



カルテを携え議論に参加する医師（萩市　都志見病院撮影）
スピーカー、カメラ、モニターが見える。テレビ会議の形式で行っている。

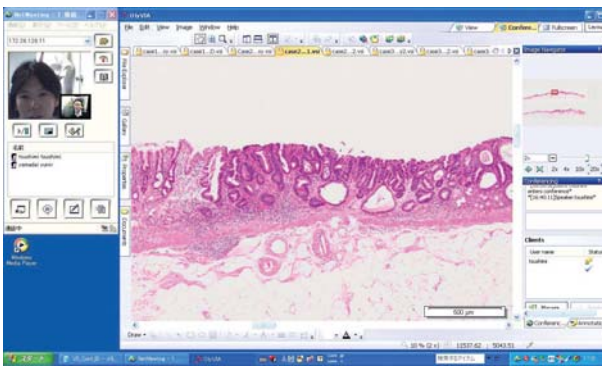
病理医について

病理医は病変を顕微鏡で観察し、「がん」をはじめ多くの疾患の最終診断をしています。病理専門医は全国で約2,000人（山口県内約20人）であり、慢性的に不足しています。県内病院では大学を除くと常勤病理医が不在か、いても１人となっています。したがって、病院間で病理組織像を含む情報交換（病理・各臨床科、病理・病理など）が実施できれば、地域病理医の不足を補う上でも意義があります。

大学・地域病院間ネットワーク

現在、病理画像を交えた情報交換は山口大学医学部（宇部市）と都志見病院（萩市）との間で、NTT西日本の提供する通信環境を用いて、山口大学メディア基盤センターの協力のもと実施されており、地元のテレビでも報道されました。セキュリティーが確保された（仮想の専用回線：VPN）環境で、病理・臨床が互いに情報を共有することで、双方向性のディスカッションが実現され、患者の病変の理解や治療計画の作成に役立っています。このようなシステムを地域医療に真に役立てるには、機械や通信環境の整備だけではなく、携わる人間どうし相互に信頼関係が成立していることが前提となります。

VPN環境では、現在、西日本地区の施設と連携が可能で、沖縄県の病院とも試験的に病院間通信を行いました。公衆網（インターネット）では全世界と通信可能です。このようなバーチャルスライドを活用した情報交換の実施は地域医療の実際に役立っています。



山口大側で撮影したモニター上の表示
左側小さいウィンドウに相手の顔が映っている。右側は病理組織像。サーバーを介すので、視野や縮尺を変えたり、画面に書き込んだり双方からアプローチできる。書き込みを含め共通の画像が表示される。

▶学内連絡先
TEL：0836-22-2222　FAX：0836-22-2223
E-mail：oga@yamaguchi-u.ac.jp

産学連携活動について

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO技術開発機構)／産業技術養成技術者(NEDOフェロー)
有限会社山口ティー・エル・オー／技術移転アソシエイト<山口大学産学公連携・イノベーション推進機構客員研究員（産学連携コーディネータ）>
林　里織

はじめに

現在、私は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO技術開発機構）が行っている産業技術フェローシップ事業【産業技術に対して幅広い視野と経験を有し、技術シーズを迅速に実用化・事業化につなげていくことのできる優れた資質を有する若手研究人材を養成する事業】の産業技術養成技術者（NEDOフェロー）として、受入機関である有限会社山口ティー・エル・オーにおいて、産学連携を担う人材として必要な能力を兼ね備えた「即戦力」人材となるため、座学とOJTとによる研修を行っています。博士後期課程からNEDOフェローへと、研究者の卵から研究支援者の道へ踏み出してまだ２年ですが、日々の活動で感じていることをお伝えしたいと思います。

日々の活動にて…

研究成果の発掘から知的財産のライセンシングまで、大学の知を如何に社会へ還元するかという課題に取り組んでいます。大学の研究成果を効果的に市場価値に結びつけるためには、技術と経営との両方を理解していなければならず、「産」の視点を持っていないとうまくいきません。何かを行うときにまず相手を知ることは当たり前の事です。「産」の実態を知る手段として、研究者自身が学術文献・論文検索を行うように、特許公報等を重要な技術文献として把握すること、学会などで研究成果の情報交換を行うように、展示会へ足を運び、産業界の動向を調査すること、などがあげられます。「学」がニーズと思っていることが、見当違いであったり、「産」のニーズは遥か先の技術にあったりと、直接会って産業界の情報を得ることの重要性を感じています。

これから…

イノベーションを創出するためには、専門分野や組織を超えて、知識や技術の融合を行うことが極めて重要と思います。コーディネータのネットワークを活用して、「産」と「学」との相思相愛の連携を推進するお手伝いができるよう、日々精進して参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

▶学内連絡先
産学公連携・イノベーション推進機構内
㈲山口ティー・エル・オー
TEL：0836-85-9958
E-mail：saori-hys@crc.yamaguchi-u.ac.jp
URL：http://www.crc.yamaguchi-u.ac.jp/tlo/

地域企業との交流

イノベーション　－新市場を作り出す－

産学公連携・イノベーション推進機構の取り組み

産学公連携・イノベーション推進機構
産学連携コーディネータ
杉浦　文彦

地域の窓口

山口大学憲章や研究基本方針などに地域社会の発展への貢献が謳われており、地域への貢献や研究成果の社会への発信は、山口大学の重要な役割の一つとなっています。

こうような山口大学の運営方針を背景に、産学公連携・イノベーション推進機構では、地域のニーズに応える機関として活動に取り組んでいます。

産学公連携・イノベーション推進機構（常盤キャンパス）

地域とのつながり

地域企業との交流は、下関、宇部、周南、岩国などで実施されている地域ごとの交流会や山口県が主催する技術研究会、山口大学教育研究後援財団が資金管理する旧研究協力会などを通して行っています。地域の交流会では、いつもはなかなかお会いできない方と名刺交換できるのでとても有効な機会です。後日、改めてご挨拶に伺うこともできます。

他にも研究者が個別に関連の企業の方とのつながりで研究会を行っている場合もあります。

昨年からは山口県内の大学・高専、研究機関、産業支援団体などの産学公連携活動を行っているコーディネータの連携体（コーディネータ連絡会議）を作り、他機関のコーディネータを通して地域とのつながりの機会を増やしています。

新しい取り組み

これまでの地域企業との交流は、大学の研究成果を企業に使っていただく機会を得ることが主たる目的でした。企業と大学の共同研究により外部資金を獲得して大学で質の高い研究を行い、さらに地域への貢献につなげるといった業務ルーティンを狙ったもので、成果を上げてきました。

しかし、山口大学としてはさらに一歩進んだ地域貢献を目指す必要が出てきています。

これからは大学の研究成果も企業の組織も、地域における一つのリソースと考え地域発の新産業を興すことで、大学の研究成果を発信する場を自ら作り出す活動を進める必要があります。そのためにも私たちは連携機関との協力により地域に対する大学からの情報発信を積極的に増加させ、今後さらに山口大学が地域から必要とされる大学になるよう活動を進めます。

▶学内連絡先
TEL：0836-85-9987
E-mail：sugiuraf@yamaguchi-u.ac.jp
URL：http://www.sangaku.yamaguchi-u.ac.jp/

山口県内各地域と山口大学の交流会

大学と地域の連携強化

山口大学と山口県内各地域との交流会は、山口県内各地域の皆さま方に山口大学をもっと知っていただくとともに大学に対する要望意見等をお聴きし、大学と地域との連携をより強化することを目的とした新たな試みとしてスタートし、平成18年11月、周南市内で第1回を開催しました。

大勢の企業等が出席

その後、下関、岩国、宇部・山陽小野田、山口、防府の各地域で交流会を開催してきました。

主催者挨拶をする
丸本学長

交流会は、各地元商工会議所等の協力を得て、地域の企業等へ参加を呼びかけ開催しているものです。「窓口は皆さんに開放しています。どうぞ山口大学へ来てください。」ではこちらの思いは伝わりません。こちらから積極的に各地域へ出かけていくことで、企業等側からも大変歓迎されています。交流会には丸本学長をはじめ、副学長および各学部長等が出席し、「地域と連携し、地域の皆さまの意見を大学運営に活かしたい。」という大学の思いが企業等の皆さま方にも伝わり、これまで交流会に参加いただいた方々は約300人にのぼり、その関心の高さが伺えます。

充実した交流会

交流会は、大学の概要紹介に始まり、それぞれの地域から要望のあったテーマでの大学教員による卓話、例えば下関地域では「産学連携について」、山口地域では「山口の『西の京』伝承」、防府地域では「地域発イノベーションと地域の活性化」がテーマになりました。

地元代表者挨拶
（山口商工会議所会頭）

交流会のメインは、本学と参加者の方々との「意見交換」の時間です。参加者側からは中小企業でも大学との技術連携ができるのか、学生に地元企業に就職して欲しい、大学の将来像に係る質問等々、要望・意見は多岐にわたり、質問に応える大学側とのやりとりで、毎回、時間オーバーになるほどです。引き続き行われる出席者による情報交換会では、会場内のあちこちで名刺交換や、賑やかな交流の輪ができ、どの会場も盛会のうちに全てのプログラムを終えることができました。

また、山大ブランドのPRとして、学生の自主活動を支援するおもしろプロジェクトから生まれた「山大まんじゅう」が発売されたときなどは、出席者の方に配り、大学に関心をもってもらうよう話題提供する場としても活用させていただいています。

意見交換の様子（岩国地域）

今後に向けて

この交流会が、法人化後の国立大学の現状や山口大学の教育研究並びに地域貢献活動を地域の皆さまに知ってもらい、地域の方々が抱く「大学は敷居が高い」というイメージを変える契機となったことは、本学にとっても開催の意義は極めて大きいと言えます。

平成21年度以降もより充実したものとなるよう、内容等を模索しながら継続して開催していきたいと思っています。

▶学内連絡先
総務部総務課　TEL：083-933-5005
E-mail：sh015@yamaguchi-u.ac.jp

地域で活躍する学生サークル

山口大学では、たくさんの学生さんがサークル活動を通じて、地域や国際貢献に関わっています。現在、自主活動ルームで把握されているサークルだけでも以下のものがありますが、ここでは、地域で頑張っている学生たちの様子を一部ですが紹介します。

学生たちの想い

学生さんにサークルに入った理由やサークルを立ち上げた理由をお聞きしたところ、「大学に入り初めての一人暮らしで、全てが新しい生活の中で何かをやりたいと思った」、「高校の時もいろんな活動をしていたが、大学の自由な環境の中で、もっといろんなことにチャレンジしてみたいと思った」という答えが返ってきました。中には、「ボランティアをしたい」ではなく、とにかく何かやってみたい、地域と関わりを持ちたい、地域の方と話をしてみたいという学生もおり、さまざまな想いで学生たちは活動を始めています。

地域から世界へ　国際系サークル「cheka」

「cheka」は、国際交流に興味を持ち、国際に関する何かがしたいという想いを持つ学生が立ち上げたサークルです。「子供たちに想いを伝えるためには、まず自分がたくさんの経験をしたい」という教員を目指す学生や、「先輩の『世界中の子供たちを笑顔にしたい』という言葉に感銘したから」という学生たちが運営しています。「cheka」は、地域と連携してフェアトレードのイベントやチャリティコンサートを開催したほか、今年２月には、チャリティで集めた募金をアフリカ・ケニアの難民の子供たちに届けました。その募金は、ケニアの子供たちの生活自立訓練に活かされています。学生たちの想いは、大学内にとどまらず、地域から世界に拡がっています。

国際活動、地域活動、ボランティア活動に関するサークル

国際系（8）	E.S.S.、cheka、日本語友の会、山口大学国際医療研究会、山口大学中国人留学生学友会、YUISA、留学生交流ボランティア、YICA
地域活動・ボランティア系（12）	アニマルセラピー研究会、学生耕作隊、CAMゼミ、地域活動おたすけサークルメディエーター、徳地野外活動クラブ（TYC）、トム・ソーヤーズ、ホタゆに、BEING FREEDOM、MY CAMPUS、MAPPY、めだかの学校、山口大学学生赤十字奉仕団、山口BBS会
おもプロ採用団体（2）	International Friendship Project、慶南青年カレッジ

（学生支援センター　自主活動ルーム作成）

学生たちを受け入れてくれる　地域の団体

そして、地域には、何かをやりたいという想いを持つ学生たちを受け入れてくださる団体が存在します。「国際交流　ひらかわ風の会」や「サポランテ」「フェアトレードネットワーク」などです。

これら団体の存在は大きく、おもプロから発生し13年目を迎えるサークル代表の学生も「地域の方たちの支えがあったからこそ、ここまでやってこれた。」と話してくれました。地域の方たちは、学生をどうやって受け入れたらよいか、一緒に活動するときには何に気を付ければよいかなど、一生懸命考え学生の活動を支えてくださっています。

チャリティコンサートでフェアトレード商品を扱う“cheka”の学生たち

自主活動ルーム

学生と地域とを結びつけるものとして、自主活動ルームが大切な役割を果たしています。ちょっとした想いで尋ねてきた学生が、同ルームを通じて地域で活動を始め、自分が本当にやりたいことを見つけ出す、そして、そこからたくさんのサークルが生まれました。決して押しつけず、まさに自主性を育てている自主活動ルーム。山口大学にとってとても大切な場所になっています。これからも、同ルームを通じて、たくさんの学生たちが育っていって欲しいと願っています。

▶学内連絡先
総合企画部広報チーム
TEL：083-933-5964
E-mail：sh050@yamaguchi-u.ac.jp

吉田キャンパスの正門･駐車場が変わります

6月末
完成予定

完成予想図

正門付近の様子
（2007年６月撮影）

今年１月から吉田キャンパスの正門整備工事を行っています。

・ 大学の正門として狭隘であり、一般の方に分かりにくい。
・ 正門入り口付近で、自動車・バイクと人・自転車の動線が交錯するため、登下校・出勤退出時が混雑し危険である。
・ 構内を出て左折する自動車と横断歩道を渡る人・自転車が交錯し、また、自動車が通行する時間帯が短いため、信号待ちをする自動車で構内駐車場が渋滞する。

などの問題点がありました。

そこで、完成予想図のように

・正門入口のコンクリート塀およびガス供給建物を撤去して、広い空間を作り、新たに車道との区切り部に石積み塀を巡らせ、また、交差点手前の人・自転車のたまり場としての機能も持たせる。
・正門から構内（教育学部方面）への道路のうち、体育館までの区間をゆったりとした人・自転車の専用道として混雑を緩和するとともに、自動車・バイク道と完全分離することにより安全性を高める。
・バイク・自動車の駐車場への入退出経路を完全な一方通行として、スムーズな通行と安全性を高める。
・自動車の構内出口を左折車線と直進車線の２車線として、直進車がスムーズに通行することにより、構内側の自動車の渋滞を防ぐ。

などの機能をもった正門・駐車場に整備することとしました。

しばらくの間、来学者の方にはご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。

常盤女子寮が完成！

常盤キャンパスに常盤・小串キャンパスで学ぶ学生を対象とした女子寮が完成し、３月23日(月)に竣工式を行いました。常盤キャンパスは工学系を中心とするキャンパスで、これまで男子寮はありましたが女子寮はありませんでした。近年、工学を学ぶ女子学生の数は年々増えており、安心して学べる環境整備の一環として、学生・保護者からの提案もあり建設しました。

常盤女子寮は、鉄筋４階建て全64室で１室は18㎡のワンルームタイプ。全室バス・トイレ・ベッド・棚・机・キッチン・エアコンを完備し、共用室も設けられています。

常盤女子寮外観

部屋の様子

平成20年度山口大学大学院修了式・山口大学卒業式

３月24日(火)、山口県スポーツ文化センターにおいて、平成20年度山口大学大学院修了式・山口大学卒業式（修了生572人、卒業生1,916人）を挙行しました。

式では、丸本学長から、各研究科・学部の代表者に学位記・卒業証書が授与され、「修了生、卒業生の皆さんおめでとうございます。皆さんが山口大学で培い、身に付けたことは、今からの人生で大きな力になると信じています。」と挨拶がありました。在学生代表の上村武流さん（経済学部３年）からの送辞の後、修了生を代表して石川宜位さん（医学系研究科）と卒業生を代表して関東賢司さん（理学部）から答辞が述べられました。

式終了後、会場の外には多くの在学生が詰めかけ、先輩との別れを惜しんで写真撮影したり、新たなスタートに向けてエールを送る姿が見られました。

卒業証書授与

平成21年度山口大学大学院入学式・山口大学入学式

入学生代表誓いの詞

サークルによる勧誘

４月３日(金)、山口県スポーツ文化センターにおいて、平成21年度山口大学大学院入学式・山口大学入学式（大学院生670人、学部生2,035人）を挙行しました。

式では、丸本学長が入学許可を宣言し、「入学おめでとうございます。『共同・共育・共有の精神』である“山大スピリット”を育て、長州ファイブの若者のようにチャレンジ力と課題探求力に富むたくましい人材に育ってほしいと願っています。」と挨拶がありました。続いて、大学院入学生を代表して土屋圭子さん（教育学研究科）と学部入学生を代表して山本彩紀子さん（教育学部）から「人格の完成と学術の研さんに専念して、人類文化の向上に寄与したいと思います。」と誓いの詞が述べられました。

最後に、応援団と吹奏楽部から新入生に向けてエールが送られ、式終了後、会場の外では多くのサークルによる熱烈な勧誘が行われました。

私の授業

村上　不二夫
（准教授　医学部附属病院総合診療部）

病院で実習中の１グループ５～６人の学生を相手にする場合を除くと、私に限らず教室での講義は殺風景な印象は否めません。おそらくは多くの分野の教員に共通だと思いますが、授業は教室の前方で、スクリーンに専門の基礎的な知識を列挙したスライドを映しながら進めていきます。時折眠たくならないように、風景のスライドを挿入して、また、講義内容に関連した新聞のスクラップ記事などを挿入して、内容に変化をつけるようにしています。

しかし、教室の後方に座ろうものならスライドは見えにくく、声はマイクを通しての肉声ではないので、たちまち眠たくなるかもしれません。立場が逆であったら私も自信がありません。本来、教育は対話形式で進めるのが知識の熟成には役に立つと思いますが、対話に至るまでの基礎的な知識を教授するには教室での講義も仕方がないものと思います。

学生には大まかに２つのタイプがあるように思います。すぐには役立つ知識ではないけれど、順序良く学んでいけばきちんと習得できるから講義についていくタイプと、すぐに必要でないものはあまりやる気がしないので、聞いていても頭に入らずそのために眠たくなる（この間には理屈が欠落しているかもしれませんが）、必要になれば後でまとめて勉強するというタイプです。後者は「お尻に火が付いてから…」というタイプでもあります。まあ、学生というもの、クラブ活動やアルバイト、趣味、友人との語らいなど有意義なことをたくさんもっているので、そちらに勤しんでいれば慢性的に睡眠不足状態かもしれませんね。

教員もスクリーンの方ばかり向いているようでは、学生の理解状況を十分には確認できていないこともありますので、時折学生の方を振り返って、教室前列の学生の顔を見ています。そうして理解状況に努めるようにしています。でも、考えてみるとあまり後ろの方には目がいってませんでしたので、これを機会にこれからは後方にも目を配るようにしようかな？学生諸君！

▶学内連絡先
TEL：0836-22-2610
E-mail：soushin@yamaguchi-u.ac.jp

わくわく☆南極！！

大和田　正明
（教授　大学院理工学研究科　地球科学分野）

■南へ

南極は氷の世界です。しかし、厚い氷の下から生命が見つかるなど、これまでの常識では考えられないことも分かってきました。南極大陸には、まだ知られていないお宝がいっぱい埋もれているはずです。私たちは、第50次南極観測隊の一員として氷の間に顔を出している岩石から秘宝を見つけるため、氷上にテント張って約70日間を南極大陸で過ごしました。

■なに調べてる

今から６億年前、地球上には、南アメリカ、アフリカ、オーストラリア、南極とそしてインドが合体した「ゴンドワナ超大陸」がありました。この超大陸は２億年前に分裂し現在の位置へと運ばれてきました。この合体と分裂の主役だったのが現在の南極大陸と考えられています。私たちは、大陸同士がくっついたり離れたりした壮大なドラマの全貌を知るためにその証拠となる岩石を探しました。

■欲望のかなたに

人間一人ひとりに個性があるように、岩石にも個性があります。その個性は岩石のでき方で決まっています。岩石を作っている鉱物は、その岩石ができた温度や深さによって特徴が違います。さらに、木は年輪によって歳が分かるように、特定の鉱物を調べることで、その鉱物の年齢が分かります。つまり、岩石に含まれている鉱物の種類や組成を調べることで、その岩石が「いつ・どこで・どんなふうにできたのか」が分かります。それに加えてアフリカはダイヤモンドの産地です。もし南極がかつてアフリカとつながっていたのなら、本当にお宝が見つかるかもしれません。俄然、意欲がわいてきます。欲に目がくらみつつも、地道に岩石を調べることで、ゴンドワナ超大陸の合体と分裂の歴史を探ることができると考えています。今回、私たちが調べた地域から、超大陸の分裂に関係する岩石が見つかりました。今後、この岩石をじっくりと調べ超大陸の分裂の様子を明らかにしたいと考えています。もしかしたら、お宝があるかもね！！

南極での調査風景

▶学内連絡先
TEL：083-933-5751
E-mail：owada@yamaguchi-u.ac.jp

大学進学・修学を保障する奨学金制度のあり方

吉田　香奈
（准教授　大学教育センター）

私の専門は教育学です。教育学というと初等・中等教育を対象とした研究を連想される方が多いと思います。しかし、今日、戦後最大の高等教育改革が進行し、大学の運営形態や質保証のためのさまざまな制度改革が実施されるなか、高等教育を対象とする研究の蓄積とそれに基づく実践の重要性が再認識されています。

私は、高等教育研究のなかでも特に教育財政・教育費の分野に関心を持っており、大学進学・修学を保障する学生支援制度、とりわけ奨学金制度のあり方について諸外国との比較研究を行っています。例えば、アメリカ合衆国の場合、連邦・州政府、大学、民間等によって提供される奨学金の総額は16兆円を超えており、このうち約６割が連邦政府によって支出されています。これには日本にはない給付型の奨学金、民間金融機関を利用した連邦学生ローン、保護者の教育費負担に対する税制上の優遇措置なども含まれています。また、大きな特徴として、大学の合格通知とともに実際に受給できる奨学金額が通知されることも挙げられます。これは申請すればほぼ全ての学生が予約奨学生として採用される仕組みであり、低所得層の学生のみならず中所得層以上の学生にも大きなメリットをもたらしています。しかし、このように充実したアメリカの制度であっても万能とは言い難く、オバマ政権は現在連邦奨学金政策の大幅な見直しを進めているところです。

日本では大学・短大の収容力が９割を超え、志願者のほとんどが進学できる状況になっていますが、これはあくまで数字上での話であり、実際には進学できる学力があっても経済的理由により断念せざるを得ない層が存在します。近年、所得格差の拡大が社会問題化しており、今後ますます保護者の解雇や疾病等で進学を断念する生徒が増加することが懸念されています。日本学生支援機構をはじめとするさまざまな奨学金の拡充や授業料の高騰を抑制する政策の実施が望まれるところです。諸外国との比較を通じて日本の現状を照らし出す一助となれば、と思っています。

日本学生支援機構・米国奨学金調査団の一員として
（メリーランド大学、2009年３月）

▶学内連絡先
TEL：083-933-5067
E-mail：ykana@yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書

纐纈厚著『新日本軍國主義的新段階』

（台湾・人間出版社、全348頁、2009年３月刊）

纐纈厚著『私たちの戦争責任 「昭和」初期２０年と「平成」期２０年の歴史的考察』

（凱風社、全205頁、2009年４月刊）

私はこれまで戦前期日本の歴史過程の分析を通して戦後日本政治の特質と構造を論じた論文や著作を手がけてきました。その一連の研究成果が台湾の大学関係者や出版社に注目されることになり、これまでに発表してきた論考を大幅に加筆修正し、このたび、台湾で最もリベラルな出版活動で知られる人間出版社から一冊の本として刊行されました。

台湾では日本への関心が国交断絶後にも依然として強く、とりわけ台湾での研究蓄積が相対的には少ない戦後日本および現代日本の政治分析への注目度は高い。本書では、戦前期の日本と台湾の歴史関係から説き起こし、それが実は戦後の日台関係にも深く影を落としていることを多角的な視点を導入して分析しました。

私は出版社主催の出版記念講演会に招聘されましたが、会場となった台湾教育師範大学には、100人を超す研究者や市民が出席されていました。台湾の淡江大学の呂正恵教授の司会で進められた講演と質疑応答では、現代日本の実情への質問が予定時間を超過して相次ぎ、日本の政治・歴史問題への関心の高さをうかがわせました。

現在、台湾では日本との学術交流は全体としてみれば決して低調ではないものの、それは極めて限られた分野への偏りが顕著であります。少なくとも人文社会科学分野での研究交流は、必ずしも活発とは言えず、それだけに同分野での研究交流の一層の発展が望まれます。それが結果的に台湾の諸大学との交流の活発化に結果すると思われます。

『私たちの戦争責任』は、昭和初期（1926－1945）と平成（1989－2008）の20年の時代状況の酷似性をデモクラシー、ファシズム、総力戦をキーワードに論じた歴史論集です。そこでは、大正期におけるデモクラシーとファシズムの混合状況から最終的にミリタリズムが派生したように、平成期においてもその可能性を随所に見出すことが可能であることを歴史研究の一環として分析しています。私の持論でもある「現代としての過去」とする視点から論じた内容となっています。

纐纈厚　教授　人文学部　人文社会学科
TEL：083-933-5278　E-mail：koketsu@yamaguchi-u.ac.jp

YU Information ワイユー インフォメーション
山口大学広報誌 2009.5月号 NO.91

目次 発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場

特集「地域とともに歩む山口大学」

○座談会：地域で活躍する卒業生が山口大学と地域との関わりについて語る … 2
○地域が大学に期待すること …… 米倉一夫 11
○地域へ広がる「知の広場」－地域連携を中心とした公開講座－ … 辰己佳寿子 12
○高速回線、バーチャルスライドを活用した大学・地域病院間情報交換の実施 …… 小賀厚徳 13
○産学連携活動について …… 林里織 14
○地域企業との交流
イノベーション－新市場を作り出す－
産学公連携・イノベーション推進機構の取り組み …… 杉浦文彦 15
○山口県内各地域と山口大学の交流会 …… 総務部総務課 16
○地域で活躍する学生サークル …… 総合企画部広報チーム 17

トピックス

○吉田キャンパスの正門・駐車場が変わります …… 18
○常盤女子寮が完成！ …… 19
○平成20年度山口大学大学院修了式・山口大学卒業式 …… 19
○平成21年度山口大学大学院入学式・山口大学入学式 …… 19

私の授業 …… 20
私の研究 …… 21
教員から寄せられた著書 …… 23
編集後記

表紙説明（教育学部附属光中学校生徒作品）

「すずしい風の通り道」
２年　仲山　景
この道は、いつも部活へ行くときの通り道で、私の一番好きな風景です。涼しげな感じを出したいと思い、描きました。

「光」２年　柳原　怜央
一つの机は孤独感を表しており、暗い色を意識して描きました。そこへ差し込んだ優しい光でその孤独感を救っている、その光と闇の空間を描きました。

「見慣れた階段」
２年　仲山　好
昔から階段が好きで、特に中学校ではこの古い感じの階段が気に入っていたので、いつか描きたいと思っていました。その階段に日が差し込んでいる様子を描きました。

編集後記

５月号は「地域とともに歩む山口大学」の特集を組みました。山口県内で活躍する若い山大OBと学長の座談会は大いに盛り上がり、セットされた２時間はあっという間に過ぎました。その雰囲気が誌面から伝わったでしょうか。

地域との連携に、より一層力点を置く学長の姿勢と具体的内容も出席者によく伝わったようです。また、OBからも身近な知の広場として大学を再認識していること、現役学生とのコミュニケーションを望んでいるといった明快な意見も聞くことができました。誌面の都合上カットしましたが、最後には、山口市を中心にした東アジアの地図をキャンパスに描こうというユニークなアイデアも出ました。恩師や研究室とOBの交流に加えて輪を広げた交流も必要なのだと実感した次第です。

正門がどのように変わるのか、急遽、施設環境部にトピックスとして完成予想図を示してもらいました。公園のようなゆったりとした正門になるようです。

（坪郷　英彦）

◎山口大学Webページhttp://www.yamaguchi-u.ac.jp/

山口大学広報誌第九十一号

平成二十一年五月二十九日発行

編集発行　山口大学広報委員会

（総合企画部広報チーム）

住　所：山口市吉田一六七七ー一

電　話：（〇八三）九三三ー五〇〇七

ＦＡＸ：（〇八三）九三三ー五〇一三

E-mail　sh011@yamaguchi-u.ac.jp

（本紙に関するご意見・ご感想をお寄せください）

印　刷：㈱マルニ

広報委員会委員

村田　秀一（総務企画担当副学長）

長畑　実（総務企画担当副学長補佐 エクステンションセンター）

坪郷　英彦（人文学部）

菊屋　吉生（教育学部）

成富　敬（経済学部）

岩尾　康宏（理学部）

坂井田　功（医学部）

浜本　義彦（工学部）

藤間　充（農学部）

何　暁毅（大学教育機構）

近久　博志（産学公連携・イノベーション推進機構）

小河原加久治（大学情報機構）

松田　博（アドミッションセンター）

中尾　淑乃（総合企画部広報チーム）

※ 次号は７月31日発行予定です。（５月・７月・11月・３月の年４回発行予定）

YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

http://www.yamaguchi-u.ac.jp/

山口大学広報委員会 2009年5月発行